文学史科研（「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」）
第 3 回運営委員会
（2010 年 12 月 20 日（月）10：00-11：30　東京外国語大学・本郷サテライト 7 階会議室）

参加者：臼田雅之、坂田貞二、水野善文

Ⅰ.Pollock 編著の書評について
１）各とりまとめ役を確認
1.Skt:水野、2.Pershian:榊、3.English:森本、4.Tamil:高橋孝信、5.Kannada:太田＜石川＞、6.Telugu:山田、7.Malayalam:古賀、8.Bengal:古：北田、新：丹羽、9.Gujarati:井坂、10.Sindhi:萬宮、11.Pali:矢島、12.Sinhala:（野口）13.Tibet:山口、14.Urdu(Faruqi):松村＜萩田＞、15.Urdu(Prichett):山根＜萩田＞、16.Hindi(McGregor):坂田、17.Hindi(Trivedi):石田
２）上記取り纏め役は各担当者と相互に連絡を取りながら、来年 3 月末日までに英文で原稿を作成する。各 600words.をめどとする。
３）原稿については取りまとめ役に個別に水野から依頼、督促する。

Ⅱ.科研プロジェクト全般の今後の進め方
１．　以前に設定した論集のテーマ A および B については、相当数のノミネートを見ている。（科研 HP を参照：検索ソフトで「水野善文」から本学研究者総覧ページにリンクあり。メンバーのみ閲覧可能ページのパスワードは bungakukaken）よってこれらを、2011 年 12 月までに原稿化、冊子体（たとえば『南アジア言語文化』特集号）で発行。
　論集テーマ C および D については運営委員より投稿呼びかけ。これたは、2012 年 12 月をめどに原稿化、刊行へ。
最終年 2013 年には、最終目的『文学史』の執筆開始＜目次と概要の完成、出版社との交渉＞

２．HP について：閲覧方法の周知と相互情報交換の場としての有効利用を促す。

３．NIHU 現代インド地域研究とも旨く折り合いをつけながら、若手育成の場としても機能するよう努める。

４．次回研究会の予定　日程：2011 年 5 月 21 日（土曜日）場所：東京
テーマ：坂田貞二　問題提起　文学の媒体（写本、印刷技術、メディア）の問題